東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年3月30

偽善

親愛なるムスリムの皆様

崇高なるアッラーは人々に無限の恵みを与えられました。そしてご自身を知り、イバーダを行うこと、アッラーの命令と禁止事項に従うこと、これら全てをただアッラーのご満悦のために行うことを命じられました。事実アッラーは次のように仰せられました。「かれは永生であられ、かれの外に神はない。だからかれに祈り、信心の誠を尽してかれに傾倒せよ。万有の主アッラーに讃えあれ。」（ガーフィル章　40/65）

偽善とは、やること、言葉、振る舞いで見せかけを行うこと、何らかの善行や崇拝行為をアッラーのご満悦を得るためではなく人々の気に入るために行うことです。特に物質的・精神的利益を手にするために崇高なる教えイスラームを利用することは、人のアッラーの位階における価値を消滅させるように社会の中での価値をも傷つけるものです。なぜならアッラーに対し誠実でない者は人間関係の中でも誠実さを示すことはできません。人の言葉や行いにおける不誠実さは他の人々によって短期間で理解されます。結果としてこの人を誰も信頼しなくなるのです。同時に偽善はイバーダの真髄を壊し、善行を失わせ、ただそこにはイバーダの形のみが残ります。だからしもべはイバーダを行う際に偽善や見せかけから遠ざかり、その行いをただアッラーのご満悦のためになすべきなのです。

このことについて預言者ムハンマドは次のようにおっしゃられています。「誰であれ行った善行をその利益のために人々に知らしめるのであれば、アッラーもその人の秘めごとを人々に知らされる。誰であれ行ったよいことを見せかけのためになしたのであればアッラーもその偽善性を明らかにされる。」

親愛なるムスリムの皆様。偽善を言い訳にしてイバーダを放棄すること、絶対に確かではない限り他者を偽善者だと見なすことはやってはいけません。偽善とは心のあり方です。人の心の中にあるものはただアッラーのみがご存じであられます。

イバーダやそのほかの仕事を不足なく行う努力をし、見せかけから遠ざかりイフラースと誠実な感情で行動するべきです。私たちの行為のサワーブを、見せかけや偽善によって失わないようにしないといけません。崇高なるアッラーのご満悦を人々の賞賛よりも優先することを生きる上での原則とすべきなのです。

今日のフトバを雌牛章第２６４節で締めくくります。アッラーは言われました。「信仰する者よ、あなたがたは人びとに見せびらかすため、持物を施す者のように、負担侮辱を感じさせて、自分の施しを無益にしてはならない。またアッラーも、最後の（審判の）日も信じない者のように。かれらを譬えてみればちょうど、土を被った滑らかな岩のようなもので、大雨が降れば裸になってしまう。かれらはその働いて得たものから、何の得るところもないであろう。アッラーは不信心の者たちを御導きになられない。」